

令和3年度 社会福祉法人宰府福社会 事業計画

1、はじめに

昨年は、社会福祉法人制度改正に沿う法人経営と当法人の中期経営計画の目標の達成に向けて全職員が力をあわせて取り組むため、BSCの事業計画の策定及び施設長人事を行い、入念に準備を進めてスタートをしました。

しかし、新型コロナウイルス感染の拡大流行によって、事業運営や利用者支援に大きな支障と影響を来しています。今、また、第二波、三波により、利用者の生活に関して大きなダメージをきたしているところです。これから、まだ2・3年は続くといわれています。

こうした状況を受けて、国や県の感染防止対策に加え、法人でも基本対策及び体制を決め、各施設・事業所が統一的に取り組むとともに、各施設の独自の対策も併せて実施してきました。国の感染防止の通知等を読み込んで、法人独自のコロナ感染防止等マニュアルの作成や緊急連絡体制の見直しをも行っている所です。

法人経営においては、1つに、利用者主体のサービスの提供によるサービス向上を図ること、利用者のニーズ、利用者主体のサービスの提供などの「サービス向上」、いわゆる利用者を起点に基づく実践、即ち、利用者の思い、状況、経済的負担、満足などに基づく事業支援、2つに、ヒト・モノ・カネ・トキ等の最大限の有効な活用、つまり、ノウハウ、サービス構成、プロセス、組織構造と活動の4つの視点から生産性の向上を図ること、3つ目に、障害のある人の生活価値を生み出す継続的な改善と改革、これが、今、必要な「法人経営」への取り組みに対する、当法人の解決しなければならない課題であると考えます。

そのためには職員の意識改革を進めなければなりません。特に施設運営の要である施設長を中心とした、組織としての取り組むべき目標に向けて全職員が一丸となって取り組める環境づくりを進めます。

令和3年度は、この統制活動の確立を基本に、マーケティングと生産性の向上とイノベーションの要素を考慮して、中期経営計画の重点項目についてコロナ禍において「新しい生活洋式」に沿って取り組むこととします。また、今年度は中期経営計画最終年に当たり、見直しの年になります。

2、重点項目

(1) サービスの質の向上

・どんな思いやニーズに注目して、利用者に対しどういった創造価値を高めたか

- ① 利用者ニーズの把握と理解
- ② サービスの利用者満足度の把握

(2) 組織強化と活性化

・生産性の向上を図り、事業目標の達成ができたか

- ① 新しいサービスへの取り組み
- ② 業務の進め方の評価と検討

(3) 人材確保と育成

・職員のリーダーシップを高める事で生産性をどれだけ高めることが出来たか

- ① 職員のスキルアップ
- ② 職員の定着率向上のための仕組み作り

(4) 経営基盤の充実

• どれだけ資金を確保出来たか、そして、どう活用したか

① 収入と支出の管理

(5) 地域連携と社会貢献活動の推進

• 地域に貢献し、どう信頼を勝ち得たか

① 地域住民のニーズの把握

② 地域住民との積極的な交流

(6) 宰府園作業棟の整備と地域生活支援センターの整備

• 将来のニーズの為の新しいサービス開発をしたか

① 宰府園の作業棟、多目的室(研修、レク、地域貢献、会議)の整備